

医薬品の過剰摂取 (オーバードーズ)について



オーバードーズって？

医薬品を、決められた量を超えて、たくさん飲んでしまうことを、「オーバードーズ(OD)」と言います。

風邪薬や咳止め薬などを大量に服用し、救急搬送される事案が発生しています。

用法用量を守らず、大量の薬を短時間で服用すると・・・

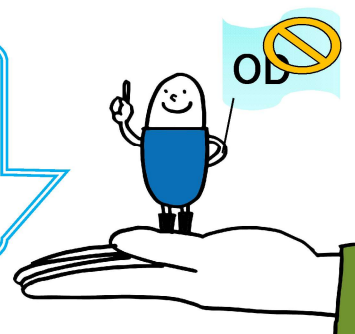
健康被害を起こしたり、意識がなくなったり、

依存症になってやめられなくなったりするおそれがあります。



オーバードーズは、あなたの心と体を傷つける、危険な行為です。

薬を購入する際には、薬剤師や登録販売者から説明を受け、説明書をよく読んで、用法用量を守って正しく使いましょう。



©2022 大阪市学校薬剤師会

お問い合わせ先

大阪市 健康局 生活衛生部 生活衛生課 薬務指導グループ

所在地: 〒530-8201 大阪市北区中之島1-3-20

T E L: 06-6208-9986

こころの健康センターからのお知らせ

～市販薬・処方薬の乱用・依存の問題でお困りの方へ～

- 薬を使うことで、一時的に、気分の落ち込みや不安を和らげたり、気分や意欲をあげたりすることができても、定められた目的や使用方法以外で薬を使うことを繰り返すうちに、やめたくてもやめられない、依存の状態になってしまうことがあります。
- 急に薬をやめたり減らしたりすると、離脱症状※が現れることがあります、不快な離脱症状を和らげるために、新たな使用を繰り返しがちになります。
※離脱症状：薬物の中止や減量に伴い出現する発汗、動機、手のふるえ、嘔気、嘔吐、不眠、幻覚、興奮、不安、倦怠感、焦燥感、けいれん発作 等
- 依存症になると、自力ではやめられず、頭痛や不眠等の症状が悪化する等、心身の健康や社会経済面など生活上の支障が出る場合があります。

依存症は回復できます。回復するためには・・・

- 医師（主治医）に相談しましょう。
- 1人で抱えず、つらい気持ちや困っていることを話したり、相談しましょう。
- 薬を使いたくなった時には、代わりに、自分自身が楽しいと感じる行動をする等、薬を使うことから気持ちをそらす工夫をしてみましょう。

例）好きな音楽を聴く、散歩に出かける、誰かと話す、ゆっくり深呼吸をする

薬への依存に関する
ことでお困りの場合
は、1人で悩まず、
ご相談ください。

【相談窓口】
大阪市こころの健康センター
依存症相談専用電話
06-6922-3475
月～金曜日（土日祝日・年末年始を除く）
9:00～17:30

